

# 地質標本館開館10周年記念行事を実施して

神谷雅晴<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

地質標本館は1980年(昭和55年),地質調査所の筑波移転を契機として,長年の念願であった“地質調査所の研究成果の紹介と地球科学の普及”を目的として創設されたものです。以前,京橋区木挽町の庁舎には1911年(明治44年)に開館した鉱物陳列館があり,関東大震災による破壊・焼失などで,一時的な中断があったものの,第2次大戦で焼失するまでの34年間存続しました。第2次大戦後,地質調査所が川崎市溝ノ口に移転してからは標本陳列館として,1952~80年(昭和27年から55年)までの28年間,約2,000点の標本や地質立体模型などを中心として,公開されてきたのです。

この間,地球科学は地殻に関するグローバルな調査・測定技術の飛躍的な発達と大量のデータ蓄積ならびにそれらの解析によって格段の進歩を遂げ,1960代後半にはプレートテクトニクス説に基いたもろもろの地質現象の合理的説明が可能となって来ました。すなわち,プレートテクトニクスによる“新しい地球観”の誕生を見たのであります。地質調査所では“新しい地質標本館”の建設のため,前述のような地球科学の発展と新しい地球観を取り入れて,新しい構想のもとに,昭和48年(1973)地質標本館レイアウト委員会を発足させ,開館までの8年間,27回にわたる検討を重ねてきました。この間の経緯については昨年の地質ニュース7月号に詳しく紹介されています(第1図)。

開館10周年記念を迎えた地質標本館では地質調査所の記念行事として,第1図に掲げたイベントを計画したのであります。

## 2. 特別講演会

開館10周年記念行事の掉尾を飾る特別講演会は昨年8月20日午後2時より,工業技術院共用講堂に約230名の聴衆を集め,地質調査所小川克郎次長の挨拶にひきつい

### 地質標本館開館10周年記念行事

8月20日	講演会	恐竜時代と地球環境 —その進化と絶滅— <small>四立科学博物館地学研究部長 小島有正先生</small>	工業技術院 共用講堂
	14:00 17:00	地下からの手紙の解読 —宝石・鉱物— <small>東北大学名誉教授 砂金さがし 眞田光生</small>	
21日			標本館
22日		宝石と貴石展	
23日	特別展 20日 24日	三葉虫の世界	標本館
24日			
26日		川原の石と砂金さがし	大子町
27日		岩石・鉱物・化石相談日	標本館

第1図 地質標本館開館10周年記念行事ポスター。

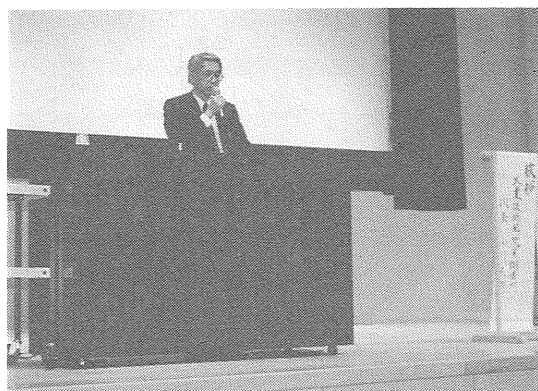


写真1 地質調査所小川克郎次長の挨拶。

1) 地質調査所 地質標本館

キーワード: 地質標本館, 開館10周年, 記念講演  
砂金さがし, 三葉虫, 宝石

て、小島郁生・砂川一郎両先生によって行われました。ご講演の内容は次項に掲載されているので省略し、両先生の経歴を略述します。

小島郁生先生

1956年九州大学大学院（修士課程）終了後、同大学理学部地質学教室の助手を経て、1962年国立科学博物館へ転任。現在同館地学研究部長。

先生は地質・古生物学とくに中生代の古生物—アンモナイト、恐竜—研究でよく知られています。著書には恐竜の進化と絶滅、恐竜辞典、恐竜の時代など数多くあります。

砂川一郎先生

1947年東北大学理学部（岩石、鉱物、鉱床学科）を卒業後、地下資源調査所（現在の工業技術院地質調査所）に入所、地質調査所鉱床部長を経て、1971年東北大学教授、1987年同大学をご退官、現在同大学名誉教授。

先生は鉱物学とくにダイヤモンドをはじめとする宝石・貴石などの結晶学の研究で著名です。著書にはダイヤモンド—その生い立ちと性質、宝石は語る、新しい鉱物学など多数あります。

両先生のご講演は一般の方々にもよく理解できるように、数多くのスライドやオーバーヘッド用フィルムを用いて行われました。ご講演の内容は全てテープに収められたのち、地質標本館奥山康子主任研究官によって起稿され、さらに両先生の加筆、修正を経て、本誌に掲載されています。

### 3. 特別展「宝石と貴石」および「三葉虫の世界」

この特別展は記念行事期間を通じて、地質標本館の玄関ホールで行い、多数の入館者で賑わい、話題となりました。

「宝石と貴石展」では地質調査所が保有している天然ダイヤモンドのうちで、比較的大きい約100個（合計200カラット）を選び出し、科学技術庁無機材質研究所からお借りした合成ダイヤモンド及び地質標本館所蔵のガラス製の世界の歴史上著名な大型ダイヤモンド（原寸大）を展示しました。同時にルビー・サファイヤ・エメラルド

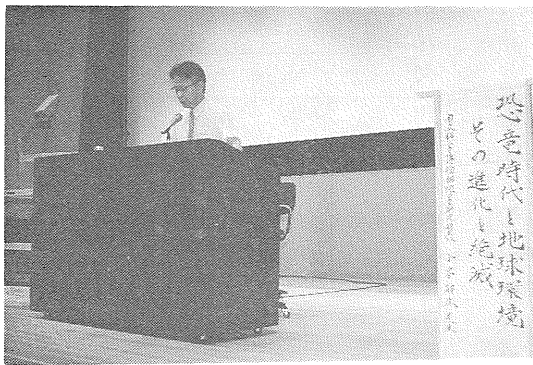


写真2 「恐竜時代と地球環境」を講演中の小島郁生先生。

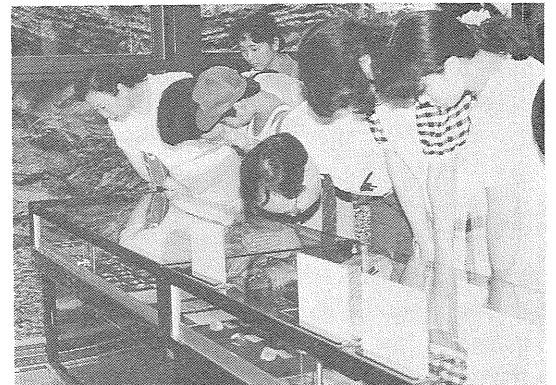


写真4 特別展「宝石と貴石」のうち、とくに人気の集まったダイヤモンド展示。

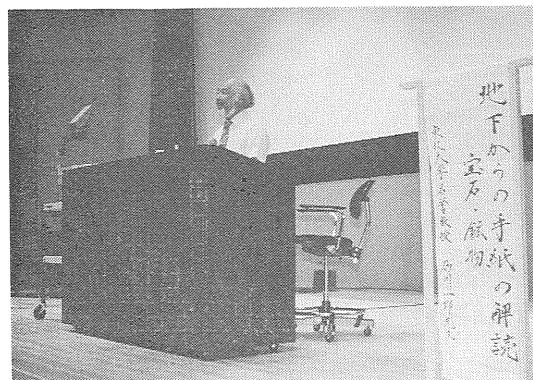


写真3 「地下からの手紙の解読」を講演中の砂川一郎先生。

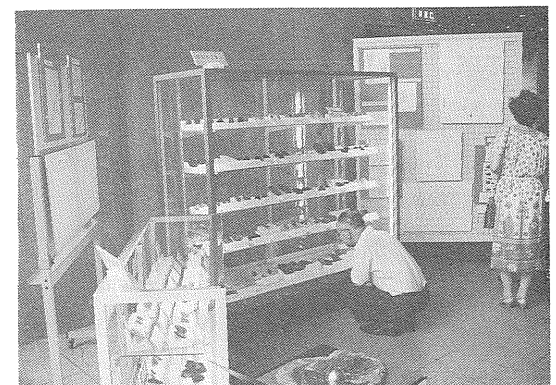


写真5 特別展「三葉虫の世界」に目を凝らす入館者。

などの美しい宝石や貴石およびそれらの原石、合成鉱物など総計数100個以上をあわせて展示し、入館者とともに女性の関心呼びました。

「三葉虫の世界」展はデボン紀から二畳紀にかけて繁栄し、中生代に入ってはほぼ絶滅した世界および日本産の三葉虫化石（レプリカを含む）約150個を分類展示するとともにその生態・進化についてパネルを用いて解説しました。また体長40cmの大型三葉虫のレプリカを作製展示し、それを直接手にとって感触を楽しむことができるよう配置し、子供たちの興味をそそりました。

#### 4. 野外行事「川原の石と砂金さがし」

8月26日（日）には茨城県大子町を流れる久慈川の川原と同町南部久慈川に合流する大沢川で、一般から公募抽選した100名の参加者とともに夏の終わりの一日を楽しみました。なお、参加者公募は地方新聞、つくば市・土浦市公報などを通して行ったが、一部では全国紙にとりあげられたため、広く関東地方一円から応募があり、約300名に達しました。

久慈川は福島・栃木県にまで及ぶ広い流域をもつてい



写真6 「川原の石と砂金さがし」午後部、大沢川で砂金さがし。この中に砂金があるのかな？

るため、火成岩、堆積岩、変成岩など多様な礫が多く、川原で石ころを集めそれらを分類しながら、周辺の地質を想像することができました。昼食後は大沢川が久慈川に合流する付近の川底の砂礫層に伴う砂金をパンニング具や各自持参の中華鍋などを用いて選別、採取することとし、午後の2～3時間、川原は歓声にあふれました。ほとんどの砂金粒はきわめて小さく、肉眼でやっと識別できる程度ですが、中には長さ3.5mm大のものもみつかることができました。この行事には新聞・週刊誌による取材があり、大人も子供もけんめいの眼差しで砂金を探す様子が、大きく報道されました。

#### 5. 岩石・鉱物・化石相談

地質標本館では例年、夏休みの終わり頃、主に小中学生を対象として、採集した岩石・鉱物・化石について相談を受けたり、質問に答えるため、専門の研究者がこれに対応してきております。平成2年度の相談日を10周年記念行事の一環として組み入れ、この日も60件の相談に16名の研究者が汗だくで対応しました。

#### 6. おわりに

1週間にわたる開館10周年記念行事は予想以上に広い範囲の都府県の人々に参加していただき、個人の入館者数は6日間で平常の3倍の1,474人に達しました。また、新聞、テレビあるいは週刊誌などでも数多く報道され（写真8）、比較的地味といわれる地質調査所の研究の一端が紹介され、合わせて地球科学に興味をもっていただく機会を提供できたものと考えております。



写真7 「岩石・鉱物・化石の相談日」に自分で集めたものを持参して、熱心に問いかける子供たち（右側は相談に応じている研究者の面々）。



写真8 10周年記念行事を報じた主な新聞記事.

この標本館開館10周年記念行事は地質調査所として全所的に取り組み、所期の成果を挙げ得たのは所員の多くの方々に積極的なご協力をいただいたことによるものです。

KAMITANI Masaharu(1991): The 10th anniversary event of the Geological Museum, Geological Survey of Japan.

<受付: 1991年3月6日>

## 地質標本館夏休みの催し

地質標本館では夏休みに特別展示と小・中学生のための「岩石・鉱物・化石」相談を予定しています。家族揃ってご来館下さい。

(1) 特別展示

「30万年前の植物を探る」

「地球化学アトラス北関東地域」

期日 7月22日(月)～9月27日(金)

(2) 小・中学生のための「岩石・鉱物・化石」相談

期日 8月22日(木)

問い合わせ: 地質標本館 TEL 0298-54-3750・3751